

英語・数学・理科<sup>〔生物基礎〕</sup>・国語

## 〔注 意 事 項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子の出題科目、ページ等は、下表のとおりです。監督者の指示に従って確認しなさい。

| 出題科目 | 大問題番号      | ページ                    | 対象受験者 |
|------|------------|------------------------|-------|
| 英語   | 第1問～第4問    | 1～12                   | 2科目受験 |
| 数学   | I～Ⅲ        | 15～20                  |       |
| 生物基礎 | I～Ⅲ        | 23～37                  |       |
| 国語   | 第一問<br>第二問 | 62～39<br>(裏表紙の次のページから) |       |

- ・医療保健学部を受験生は英語、国語、数学、生物基礎から2教科2科目選択し解答しなさい。
  - ・看護学部を受験生は英語、国語、数学、生物基礎から2教科2科目選択し解答しなさい。
  - ・人間社会学群を受験生は英語、国語、数学から2教科2科目選択し解答しなさい。
  - ・国語の問題は裏表紙「数学 マークシート記入上の注意」の次ページから始まるので注意すること。
3. 解答用紙はマークシート2枚です。
  4. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手をあげて監督者に知らせなさい。
  5. マークは、解答用紙（マークシート）に記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。ただし、数学のマークは、問題冊子裏表紙の「数学 マークシート記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
  6. 受験番号及び氏名は、解答用紙（マークシート）の所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
  7. 監督者の指示があつてから、解答用紙（マークシート）の左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。（数学については数学専用の解答用紙（マークシート）を使用すること。）
  8. 問題冊子の中にある余白ページ（P.13, P.14, P.21, P.22, P.38）を下書き用紙として利用してもかまわない。
  9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 国

# 語

(45分)

100点

(解答番号)

1

5

28

)

## 第一問

次の文章は天沢夏月『青の刀匠』の一節で、東京の男子高校生コテツ（「テツ」）は、島根で刀鍛冶かじをしている遠縁の匠、かがりさんのもとで、弟子のコウさんやカンナさんにも教わりながら刀鍛冶の手伝いをしている。かがりさんの世話になっているのには、家が火事に遭ってしまったという事情があり、コテツは無気力におちいりながら、言われるがままに炭切りの作業をしていた。そんなある日、コテツが切った炭が爆はぜてコウさんが顔をけがしてしまう。カンナさんに厳しく怒られ、罪悪感をいだいていたコテツだったが、その後、コウさんに、切った炭がどのように燃えるのか見せてもらうことになった。次の場面を読んで、後の問いに答えなさい。(45点)

跳ねるかもしれないから視のぞき込むなよ、と釘(1)を刺しつつ、コウさんは俺に七輪に近づくよう促した。乾いた唇を湿しつつゆっくり七輪(2)ににじり寄ると、中で小さく炎が躍っているのがわかる。コウさんの切った炭だからなのかもしれないが、弱火程度の穏やかでアワい炎だ。

爆跳(注1)について調べていたときついでに知ったのだが、炭は無炎燃焼といい、本来はその名の通り炎なしで燃えるらしい。ただこれは理屈上百パーセント炭化していればの話であって、炭素以外の可燃成分が炭の中に存在していたり、燃焼に伴ってガスが発生したりすると、これらに火がつき炎という形になって現れる。

コウさんいわく、松炭の場合、いわゆる松脂まつやにが含まれるためこれがよく燃える。火つきがいい、火力が高いと言われる所以ゆえんは多孔質構造(注2)以外にそこにもあるようだ。薪といえば松だったり、松明たいまつなんて言葉があるのも、松材がよく燃えることを表しているのか。

「平気そう?」

「……はい。とりあえず」

コウさんのつけた火はチリチリと、鈴のような軽い音を立てて静かに燃えている。想像していたのとは少し違う、落ち着いた音だ。本来の鍛錬とは規模が違うので当然かもしれないが、若干

(3)

する。自分で熾すならともかく、見ている分には大

丈夫そうだ。

「じゃ、足してみようか」

そう言つて、コウさんが俺の切った炭をいくつかトングで挟み、火のついた炭の下へもぐり込ませるように入れた。

しばらくは何の変化もないように見えた。

強いて言うなら、心持ち炎の揺らぎが大きくなつたか——と、中でパンツと炭が爆ぜた。大きく欠片が飛ぶようなことはなかつたが、爆発したのは確かだつた。

「今の……」

「テツくん、持つてるなア。そうそう起きないはずなんだけどな」

コウさんは呆れ気味に笑う。

(5)「さて。なぜ爆ぜたでしょう」

俺はコウさんが切ったものと自分が切ったものをよく見比べてみた。大きさが不揃いなことを除けば、見た目にはほとんど差はない。だが、俺のやつには交ぜてはいけないものが交ざっているはずだ。なんだ、何が違う？

考えながら自分の炭の山をかき回していると、何かが刺さつて俺は反射的に手を引っこ抜いた。もう一度恐る恐る手を入れ、ゆつくり炭の中を泳がせると、ときどき尖った何かが皮膚を刺す。取り出してみると、節だったり、枝分かれの箇所だったり、硬そうな部分だ。

コウさんの炭の山を探してみても、ぱつとは見当たらない。

「節……ですか？」

コウさんはにこりとした。

「節とか枝分かれのところって、密閉された空気だったり、水分が残ってることがあるんだよね。形が悪い分、詰まってる場所があるってことなんだろうね」

「なるほど、それが熱でボウ張<sup>(6)</sup>して……」

「そういうこと。あとはヤニが固まってる場所とかは火の色が変わっちゃったりしてね。温度の見極めが難しくなるんだ。だからうちでは、鍛錬とか焼き入れ用としては外してるね」

七輪を見つめるコウさんの目に、小さく映った炎が静かに踊っている。

「おれたちは炎の色を見てタイミングを計ってる。鉄を熱していくと、そのうち火が黄色っぽくなるんだ。鉄は炎色反応を示さないから、含まれていた不<sup>(7)</sup>ジュン物とかが溶け出して、燃えてるのかもしれないけど……ま、理屈はともかく、炎を見ればやるべきことはわかる。作刀は、炎との対話。鉄との対話でもあるけどね。いずれにしてもその対話は炭切りから始まっていて、きちんとした炭じゃなきゃ、炎は叫ぶばかりで何も聞き取れないんだ」

「……すみません。俺、ちゃんと見てなかったです」

カンナさんに言われたことは、<sup>(注3)</sup>聞いた当時も耳に痛かったけれど、今の方がさらに痛い。

目的がない。というより、<sup>(8)</sup>見えていない。遠いものだけじゃなく、近いものも。ただ漠然とそこにいるだけの俺は、点<sup>(注4)</sup>だ。だけど仕事は、線<sup>(9)</sup>なのだ。

コウさんも言っていたつけ。

自分たちがやっていることは、誰かの仕事と地続きなんだってことを忘れちゃいけない。

誰かが焼いた炭。これから誰かが使う炭。その狭間<sup>(はざま)</sup>で切っている自分しか想像できないから、楽をすることばかり考えてしまう。でも、俺の仕事も誰かの仕事に続いている。誰かの世界に繋<sup>(つな)</sup>がっている。自分が望むかどうかには、かわらず。

線の上の自分を自覚していないこと。それは部屋に引きこもりかけたあのときの自分<sup>(注4)</sup>のままということだ。何も変わっていない

い。本当に、引きこもる部屋が変わっただけだ。

「教えてもらうのは早いけど、遠回りでも自分で気づいたことってなかなか忘れないでしょ。同じ知識でも、経験が伴うかどうかで記憶の深さって変わるから」

コウさんもそうだったのだろうか。それ自体が、コウさんの気づきだったのだろうか。

「<sup>(9)</sup>いいのさ、失敗しても。それを糧に進めればね。そりゃ成功した方が気持ちいいだろうけど、失敗の方が経験値は多い。先にレベルアップするのは、存外失敗が多いやつだったりするよ」

それは、過去の自分自身に向けた笑い声にも聞こえた。

「そう……ですかね」

失敗ばかりするやつは、俺の中では進みが悪いやつだ。成功するやつは一步が大きいイメージ。だから成功を重ねてどんどん先へ行ってしまうって、そのうち追いつけないと悟り立ち止まる。

「座り込んじゃったら負けなんだ」

一番弟子の言葉には、妙に力がこもっていた。何がコウさんにそれを言わせたのか、俺にはわからない。ただ、かがりさんと同じことを言うんだと思う。師匠と弟子、ということか。かがりさんの職人としての血は、<sup>(10)</sup>マギれもなくこの人の中にも流れている。

「こないだも言っただけさ、せっかくやるなら何か得ないともつたいないじゃん？」

自分で言った台詞に照れたみたい、コウさんは急にへらへらと笑う。

「テツくんみたいに火事に遭ったわけじゃないけど、炎が自分に向かってくるんじゃないかって思うとおれだって怖いよ。さつきよろつと言っただけ、うち焼き鳥屋だったからさ、ガキの頃はよく火熾しとか手伝わされてたんだよ。あの頃は何もわかってなかったな。理屈もわからず爆跳を恐れて、逃げ回ってた。ちゃんと炭に向き合ったのはここに弟子入りしてからだよ。自分で炭切って燃やしてみると、粒揃いとか大きさを火が変わるのがわかって、そうするとだんだんこの炭ならこれくらいの火が上

がるなって、見えるようになる。そうなって初めて、親に教わったことの意味がわかってきたつてのは、

(11) 話だけど

コウさんは何かを捻<sup>ひね</sup>り出すように目をぐりと回した。

「要するに、火を味方につけるっていうかさ。寒いときに火に当たつてると、ほっとするじゃん。心もほぐれるっていうかさ。そういう……なんていうかな、火っていいところもあるから。火を見るときに、いい方を意識してみたらいいんじゃない？ 君は悪い方のイメージに引つ張られ過ぎてるんだと思う。いや、それ自体は無理からぬことだとは思うけどね、もちろん」

「はい……ありがとうございます」

優しい人だな、と掛け値なしに思った。<sup>(12)</sup>今はコウさんの方が大変なはずなのに。それでも俺の面倒を見てくれるのは、かがりさんに言われたというのももちろんあるだろうが、なによりこの人自身が温かい人だからなのだろう。かがりさんとはまた違う、<sup>(13)</sup>穏やかだけれどほっとする、静かな炎がそこにはあった。

俺が炭切りを適当にやれば、中かがりさんやコウさんが、火を制御できなくなる。そのことをわかっていなかった自分が恥ずかしかった。誰より火をウト<sup>(14)</sup>んでいくせ、誰かに及ぶ火の牙<sup>きは</sup>を想像できていなかった。

七輪の中で小さく炎を立ち上らせる炭を見つめていると、かがりさんの言葉がふつと頭の中でこだました。炭と向き合うことは、火と向き合うこと。

(天沢夏月『青の刀匠』ポプラ社による)

(注1) 爆跳——火で熱した炭が急に爆ぜる現象。

(注2) 多孔質構造——表面に無数の細かい穴が空いている構造。

(注3) カンナさんに言われたこと——コテツの切った炭でコウさんがけがをしてしまったとき、コテツはカンナさんに「あんたはここで何がしたいの。何のために働くの。」と厳しく問い詰められた。

(注4) あのととき——自宅が火事に遭い、コテツが投げやりになっていた頃。

問 1 傍線番号(1)・(4)・(12)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

1

～

3

(1) 釘を刺しつつ

1

- ① 強めに制止しながら
- ② くり返し確認しながら
- ③ 相手の考えを見通しながら
- ④ 相手の行動を恐れながら
- ⑤ 前もって念を押しながら

(4) 心持ち

2

- ① わずかに
- ② 自信はないが
- ③ 目でわかるくらい
- ④ 気休め程度に
- ⑤ 考え方によっては

(12) 掛け値なしに

3

- ① 底抜けに
- ② 大げさでなく
- ③ 見返りなしに
- ④ 疑いようもなく
- ⑤ かけ引きぬきに

問2 傍線番号(2)・(6)・(7)・(10)・(14)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

4

8

(2)

ア  
ワ  
い

4

- ⑤ タンのうを調べる  
④ 質をタン保する  
③ タン水魚がすむ  
② タン整な顔立ち  
① 悲タンにくれる

(7)

不  
ジ  
ユ  
ン

6

- ⑤ 資金はジユン沢だ  
④ ジユン潔な生きざま  
③ 聖地をジユン礼する  
② 条約を批ジユンする  
① 法令をジユン守する

(14)

ウ  
ト  
ん  
で

8

- ⑤ ソ撃手に任命する  
④ 必要なソ置をとる  
③ 消費者にソ求する  
② 進行をソ害する  
① 友人とソ遠になる

(6)

ボ  
ウ  
張

5

- ⑤ ボウ大な資料を読む  
④ 国家をボウ衛する  
③ ボウ績業がさかえる  
② 繁ボウ期が訪れる  
① 陰ボウ論をとる

(10)

マ  
ギ  
れ

7

- ⑤ 不正行為にフン慨する  
④ 書類をフン失する  
③ フン飾決算が起る  
② フン水の前で待つ  
① 夕食をフン発する

問3 空欄番号

マークしなさい。

(3)

9

(11)

10

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び

9 (3)

- ⑤ しり込み  
④ 空回り  
③ 拍子抜け  
② 胸騒ぎ  
① ぬか喜び

10 (11)

- ⑤ 途方もない  
④ にべもない  
③ 稀有<sup>けう</sup>な  
② 皮肉<sup>ひにく</sup>な  
① 無茶<sup>むちゃ</sup>な

#### 問4

傍線番号(5)「さて。なぜ爆ぜたでしょう」とあるが、このあとコテツはコウさんの話を聞いて、どのようなことに気づいたか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

11

- ① 作刀には炎の色の変化を見極めるタイミングが大切であることを忘れて、炎の中で炭がどのように燃えているのかをしっかりと見ていなかったこと
- ② 何も考えず不揃いな大きさの炭を用意していたことで、炭が炎の中ではじけやすくなり、それが原因でコウさんがけを負ってしまったこと
- ③ 自分が切った炭はコウさんの炭と同じように見えて、実は硬そうな部分をきちんと取り除くことができておらず、細部が美しくなかったこと
- ④ 節や枝分かれした部分のある炭も交ざっていたため、作刀の勘所である炎の加減を狂わせてしまい、コウさんの仕事をやりづらくさせていたこと
- ⑤ 自分の切った炭は空気や水分が全然残っておらず、そのせいで普通はそうそう爆ぜるものではない炭が、簡単に爆ぜるようになっていたこと

問5 傍線番号(8)「見えていない。遠いものだけじゃなく、近いものも」とあるが、このときのコテツの気持ちを説明したもの

として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

12

- ① 自身のからに閉じこもって先のことに目を背けたまま、同じ職場で働く人たちへの意思伝達をもおこたっていたことを痛感し、成長していない自分を情けなく思っている
- ② ものづくりは人と人の連携のうえにこそ成り立っているといういちばんの基本を忘れ、ひとりよがりになっていた自分の仕事の進め方に対し凶星をつかれて動揺している
- ③ 目の前の仕事をこなしてゆくことだけに満足してしまい、次の工程を任されている人に気持ちよく仕事をしてもらうための配慮を欠いていたことを申し訳なく思っている
- ④ 何のために刀鍛冶を手伝っているのかあいまいな意識のまま今日まで来た自分を猛省し、仕事に責任を持つとはどういうことかを自分なりに考え気を引き締め直している
- ⑤ なぜこの仕事をやっているのかという大局的な視点に加え、目の前の作業は次に誰かがする仕事のためにあるという細部の視点も抜け落ちていたことを深く反省している

問6 傍線番号(9)「いいのさ、失敗しても」とあるが、コウさんが言おうとしていることとして、最も適切なものを、次の①～

⑤の中から一つ選びマークしなさい。

13

- ① 何度も失敗の経験を重ねることによって、仕事に対していただいていた恐怖心を克服できるということ
- ② ミスを活かして自分を高めていけるのであれば、失敗を恐れて立ち止まるよりも断然よいということ
- ③ 間違えてもあきらめさえしなければ、特別何かを意識せずとも技能は着実に向上していくということ
- ④ なかなか前へ進めなくても、成功したときに得られるものの大きさを信じて努力すべきだということ
- ⑤ 言葉で教えてもらうという受け身の姿勢ではなく、自ら見て学ぼうという積極性が必要だということ

問7

傍線番号⑬「穏やかだけれどほっとする、静かな炎がそこにはあった」とあるが、この表現が表すコウさんの人柄を説明したものとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

14

- ① コテツの失敗を厳しくとがめ立てるのではなく、火事に遭った過去があるという彼の境遇を理解したうえで、火を扱うことを無理強いない思いやりのある人物
- ② コテツの失敗を笑って許し、それよりも彼が火とどのような関係を築いていくのがよいのか、一緒に悩みながら答えを探し出そうとしてくれる共感性の高い人物
- ③ コテツの失敗をなかつたことにし、彼を傷つけないように慎重に言葉を選びながら、今後の仕事に対する姿勢や考え方を教えてやろうとする気遣いのできる人物
- ④ コテツの失敗を前向きに受け止め、火に対するコテツの思いに共感をしめしながら、どのようにすれば彼が今の仕事に向き合えるか助言してくれる温情のある人物
- ⑤ コテツの失敗を踏まえたうえで、現在のコテツや昔の自分のようにただ火を恐怖の対象として見るのではなく、火のよいところについても言及できる思慮深い人物

問8

本文の特徴の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

15

- ① 人物の言動を客観的な視点で描くことで、似た境遇にあるコテツとコウさんが心を通わせる様子を明確に伝えている
- ② 会話文のなかに「……」を多用することで、コウさんの考えを受け入れられず返答に困るコテツの心情を表している
- ③ 主人公の胸中を心の声として描くことで、コウさんの言葉を自分なりに理解しようとするコテツの意識を伝えている
- ④ 過去の具体的な挿話を用いることで、かつてコウさんがコテツと同じような失敗をした場面を印象的に表現している
- ⑤ 静かに燃える火の描写を会話の間に挟むことで、コテツとコウさんの間に流れる気まずい沈黙を強調して描いている

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(55点)

わたしたちの社会は、血縁、地縁、選択縁によるつながりがあると言われていたが、特に近年、インターネットをはじめとした情報技術の発展、SNSなどのコミュニケーションツールにより、時空間を超えてさまざまな人たちとつながることが可能になっていく。時空間の制約を超えて関心のある人たち同士で自由につながることができるようになった一方で、特定の関心に分断された小さな集団が数多く生まれることになった。関心の近い人たちと関わり合う技術、居心地のよい関係を補完させる技術は発達したが、異なる関心を持つ、異なる世代、異なる属性の人たちとの関わり<sup>(1)</sup>のヨツ求はむしろ少なくなっているのではない。異なる人びととの関わりはコミュニケーションの前提が共有されておらず、しばしばすれ違いが起こりうる。コミュニケーションの前提を確認しながら対話を重ねざるを得ず、結果、心理的負荷が伴う。それに対して、関心、世代、属性が似通った人々たちとの関わりは前提が共有されており、前提への配慮なく対話が可能であり、結果、居心地のよいコミュニケーションによる場が成立する。

情報技術を介したコミュニケーションによってつくられた場が非常に居心地よいように、わたしたちの身の回りの環境も似通った機能で構成されると居心地のよい環境となる。ようろうたけし(注)養老孟司が「脳化社会」と称したように、人びとの頭の中にある社会像を具現化したものが都市という環境の一面である。

わたしたちの身の回りの環境としての都市をかたちづくる基盤を構成してきたのが「都市計画」である。都市計画は都市計画法の定義によれば、「土地利用、都市施設の整備および市街地開発事業」に関する計画とされている。土地利用計画にて都市空間の機能の配分を行い、都市施設の整備によって人びとの生活を支える基盤と都市の骨格をかたちづくり、市街地開発事業によって都市を更新する。「都市計画」によってわたしたちの都市の基盤はかたちづくられてきたが、わたしたちが頭の中で考え、形あるものにしてきた環境そのものであり、その結果、<sup>(2)</sup>ある居心地のよさが感じられるようになっていくといえる。

(3)

、都市計画は産業化に伴い発生した都市問題に対する居住環境の確保を命題として誕生した。19世紀、産業革命の母

国イギリスを経て、わが国においても同様の必要で都市空間に対して用途の配置が行われてきた。1919年、市街地建築物法、旧都市計画法の制定にはじまり、市街地建築物法の改正（1938年）、建築基準法の制定（1950年）、新都市計画法（1969年）、建築基準法の改正（1970年）、都市計画法・建築基準法の改正（1992年）と、工業の環境悪化要因、事務所などの非住居系用途の侵入から住環境を守るための改正が重ねられてきた。大規模な工場が集積する工業専用地域と住宅が集積する住居専用地域などの土地利用は隣接することなく分離され、住環境の安寧、生産環境の保全が都市を構成する大きな基盤として実現してきた。その結果、都市生活者のライフスタイルは、生産設備が立地する商業系用途や工業系用途の都市空間と、住宅が立地する住居系用途の都市空間を人びとが行き来することから成り立ち、厳しい通勤ラッシュ、帰宅時間の遅い働き手不在の食卓といった生活を招いたともいえるが、商店、飲食店等が少ない住宅団地の生活も、生産施設の大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害から距離を置き、静穏であこがれのライフスタイルであり続けてきた。異なる機能と隣接することなく「居心地のよい」空間が実現してきたといえる。

(4) 、その居心地のよさの<sup>(5)</sup>カク得と引き替えに、異なる他者との関わりの機会を失ってきたともいえる。関心、世代、属性の近いものによるコミュニティの居心地はよいが、新しいメンバーの参画はなく、新しい観点の提供もない退屈なものになる。機能を分離したことで得られる居心地のよい住環境は、静穏であこがれのライフスタイルであり続けてきたが、平日の昼間は人気がなく、商業施設のにぎわいからも距離があり、静穏であるがどこか退屈である。想定外の機能、出来事に会おうことなく、穏やかではあるが、変わりばえのない日常が続くことになる。

こうした課題を乗り越えるためには、わたしたちがかつて選び取ってきた居心地のよさを越えて、隣り合う他者との関わりを再構築していく必要がある。都市が都市である要素の一つに、異なる関心、世代、属性の他者と関わり合うことができることにある。異なる関心、世代、属性の他者と関わり合うためには、実空間の存在が助けになる。情報技術を介したコミュニケーションでは、(6) 前提を確認しながらの対話は難しい。一方が発した言葉が通じているか通じていないか、相手の表情、しぐさなど言葉で表される以外の反応を確認する必要があるためである。隣り合う他者の振る舞いは、ときには居心地の悪さにもつな

がるが、実空間での言葉を尽くした関わり合いによって、新しい見方を提供することもしばしばある。そうした可能性が、実空間での隣り合う他者との関係に見い出すことができる。

(7)、近年の近隣における問題として、公園に遊ぶ子どもたちの声や、幼稚園<sup>(8)</sup>の子どもの声が騒音として捉えられる事例がしばしば報告される。隣り合う異なる世代の他者との関わりが希薄なためであると言われているが、日頃、騒音として子どもたちの声を捉えていた人も、孫ができたときに他者としての子どもが自身の関わりのある存在に変わる「かも」しれない。公園でケガをした子どもを助けたことをきっかけに子どもたちと挨拶をするような関係になる「かも」しれない。背景の理解できない他者に対する想像力を発揮することは難しいが、人となりを理解した他者に対する想像力を発揮するのは容易である。

<sup>(9)</sup>他者に対する想像力によって、騒音として捉えられていた子どもたちの声が、地域の活力の表れとして理解されるようになる「かも」しれない。想定事例にすぎないが、こうしたそれぞれの生活者の認識を超えるような出来事と関わることをできるのも、異なる関心、世代、属性の他者と関わることでできる都市空間において成立することであるといえる。都市空間の意義は、「隣り合う他者と関わり合い、新たな価値が生まれる場」といえないだろうか。

それがわかりやすく現れているのが、都市における広場ではないか。たとえば、近年、全国で「まちなか広場」と呼ばれる都市の中心部で広く市民が利用できる広場が次々と設置されている。ランドプラザ（富山市）、アオーレ長岡（長岡市）、姫路駅北駅前広場（姫路市）、うめきた広場（大阪市）、札幌駅通り地下歩行空間（札幌市）、バードハット（鳥取市）などの全国各地でおよそ30の挑戦をみることができる。いずれの事例からも公共空間を自動車中心の場所から歩行者中心の場所として取り戻し、人びとが関わり合う場の誕生を求める人びとの大きなうねりが感じられる。都市の成り立ちにあわせて生まれた「広場」が、現代の都市において改めて希求されているといえるのではないか。

広場では他者と関わり合うことができる。ヤン・ゲール<sup>(注2)</sup>は、広場における行為を「必要活動」「任意活動」「社会活動」と整理し、他者と関わりある行為を「社会活動<sup>(10)</sup>」と呼んだ。シャッター街となった商店街を歩いても楽しいことはない。誰も留まっていない大きな広場は薄ら寒い印象がある。ヨーロッパのオープンカフェで留まる人びと、その横を通り過ぎる人びと、その間に

はお互いに「見る―見られる」の関係が成立し、まちなか広場では多くの人が思い思いの時間を過ごす。イベントがあれば、舞台の演者と買物物の途中立ち寄った人との交歓、舞台を見ている人同士の関係も期待できる。年老いた人は、横で転ぶ子どもに目を細める一方、小さな子どもは着飾った壮年の男女にあこがれることもあるかもしれない。家の中では出会えない人たちとまちなかの広場では出会うことができる。人びとのコミュニケーションが通信技術にイ存するようになった分、かえって他者との交歓が求められている。こうした日頃の生活では想定しえない、これまで関わることのなかった人たちとの出会い、異なる他者との関わりが「都市に住むよるこび」であるといえる。

<sup>(12)</sup> こうした事例はインターネットで書籍を販売するAmazonと街場の本屋との対比からでもうかがえる。Amazonでは、「ロングテール」と呼ばれるように多くの種類、豊富な品揃えにより、特シユな本も購入することができるが、購買者があらかじめ想定している本や検索キーワードによって見つけられる本しか出会うことができない。一方、街場の本屋は限られた店舗面積に置かれる本しかないが、購買者が想定していなかった新しい本とも出会うことができる。実空間には、購買者自身が五感を使って検索し、未知なる世界に踏み込む可能性がある。他者との交歓、想定をこえた出会いが (14) に起こり得ることに実空間の価値がある。

こうした「他者」との出会いの機会をつくり、場所の価値を高めることが「まちづくり」「地域づくり」の重要な手がかりになっている。

（佐久間康富「重層的都市論―隣り合う他者と関わりを持つための場の理解」後藤春彦編著『無形学へ―かたちになる前の思考』所収 による）

（注1）養老孟司——日本の医学者、解剖学者（一九三七―）。

（注2）ヤン・ゲール——デンマークの建築家（一九三六―）。

問 1 傍線番号(1)・(5)・(8)・(11)・(13)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

16

20

(1)

ヨツ求

16

- ⑤ 日光ヨクを楽しむ  
④ ヨク日には出発する  
③ 鳥が両ヨクを広げる  
② 面接で意ヨクを示す  
① 声にヨク揚をつける

(8)

幼チ

18

- ⑤ 町のチ安が守られる  
④ 文章がチ拙に見える  
③ チ畔で魚を観察する  
② 音チに悩まされる  
① 指紋が一チする

(13)

特シユ

20

- ⑤ 足の浮シユが改善する  
④ この森はシユ猟区域だ  
③ シユ勝な心がけである  
② 原稿にシユ筆を入れる  
① シユ玉の短編と名高い

(5)

カク得

17

- ⑤ 事のカク心を突く  
④ 猛獣を捕カクする  
③ 患者をカク離する  
② 輪カクをなぞる  
① 畑で収カクする

(11)

イ存

19

- ⑤ 学校の雰イ気が良い  
④ イ安旅行に行く  
③ イ細を承知する  
② 現状をイ持する  
① 原典にイ拠する

問2

傍線番号(2)「ある居心地のよさが感じられるようになっている」とあるが、ここでの「居心地のよさ」とは、どのようなことか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

21

- ① SNSやインターネット上で、好きなものや興味を持っている事柄が近しい者同士が集まり、余計な導入や前置きなしに円滑なコミュニケーションをはかれること
- ② 都市施設や市街地の計画的な整備・開発によって、居住空間に隣接する商業系用途や工業系用途のエリアに自由にアクセスできる有用な交通網が実現していること
- ③ 同じ趣味や世代、属性を持つ人びとによって構成されたコミュニティにおいて、心理的な負荷を感じることなく、都市計画を進めていくための環境が整っていること
- ④ 大気汚染や騒音などの環境問題を招く場から一定の距離を置いた都市空間において、人びとが居住空間だけで生活を完結できるような利便性を享受していること
- ⑤ 似通ったライフスタイルを持っている人びとの思い描く社会像が、都市の機能配分に反映されることで、都市が住民の生活に適合した空間に仕上がっていること

問3 空欄番号

クしなさい。

22

(3)

(4)

(7)

に入る語の並びとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマ

- ① そもそも——しかしながら——たとえば
- ② そもそも——そして——しかしながら
- ③ しかしながら——そして——あるいは
- ④ しかしながら——そもそも——たとえば
- ⑤ つまり——しかしながら——たとえば

問4 空欄番号

マークしなさい。

23

24

(6)

(14)

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び

- ⑤ 科学的
- ④ 歴史的
- ③ 常識的
- ② 言語的
- ① 社会的

23

(6)

- ⑤ 抜本的
- ④ 高次的
- ③ 限定的
- ② 偶発的
- ① 多元的

24

(14)

問5 傍線番号(9)「他者に対する想像力」とあるが、ここでの「他者に対する想像力」を発揮する行為とは、どうすることを意

味しているか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

25

- ① 今まで安住してきたコミュニティでの退屈をしのぐために、自分の中で異質なものを、避けるべきものとして捉えていた人びとをいったん何とか理解しようと努めること
- ② 情報技術を介した表層的なコミュニケーションではなく、現実空間での身を入れたつき合いを通じて、他者の欠点や自己との差異をありのままに受け入れようとすること
- ③ 直接顔を合わせた状態で、相手がどのような立場にあり、考えを持っているかを確認しながら対話を重ね、今まで気づかなかった視点や価値に目を向けようとする事
- ④ 異なる属性や認識を持つ人びととじかに触れ合うことにより、自分の中にあつた彼らに対する誤解を解き、それまで築かれてきた自己の価値観を一新しようとする事
- ⑤ 自分の日常生活に支障をきたすと思われるようなことからであつても、多様性の一つとして認め、ある一面においては価値のあるものと善意に解釈しようとする事

問6 傍線番号⑩「『社会活動』」とあるが、これはどのような活動であると考えられるか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

26

- ① 瞬間的な視線の交換など些<sup>さ</sup>細<sup>さい</sup>な所作を含んだ、都市にいる人びとの間で行われる交歓に関連した活動
- ② 「見る―見られる」の関係のもと視線が合うなどの、自然な接触をきっかけに発展する言語的な活動
- ③ 通信技術を使ったやり取りではなく、プライベートな空間を共有する人びととの間で交わされる活動
- ④ 転んだ子どもに関心が向いたり他人の装いに心をひかれたりするような、表面化しない精神的な活動
- ⑤ 買い物をしたり舞台イベントに足を運んだりするように、もっぱら経済的な場において行われる活動

問7

傍線番号<sup>(12)</sup>「こうした事例はインターネットで書籍を販売するAmazonと街場の本屋との対比からでもうかがえる」とあるが、「Amazonと街場の本屋」のほかに、「こうした事例」を表す「対比」を述べた内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

27

- ① タクシーに乗って向かえば迅速に目的地に着くことができる一方で、ゆっくり歩いて向かえば周りの風景を眺めながら適度な運動ができリフレッシュ効果が高まる
- ② 電子辞書を使えば調べたい語の項目をすぐ見つけられる一方で、紙の辞書を使えば紙面を広く見渡すことで別の語の意味や用法も一度に効率よく学ぶことができる
- ③ 経験者による将棋は堅実でリスクが少ない手を選択しがちな一方で、初心者による将棋は危うくも誰も思いつかないような斬新な手を選択する可能性を秘めている
- ④ ツアーのプランで選んだ場所へ向かうと安全で円滑な旅が楽しめる一方で、直感に任せて進む旅では思いもよらぬ文化や人びとに出会うことができるかもしれない
- ⑤ 同じ分野の専門家が集まり話し合いをすれば深い議論が実現する一方で、異なる分野の専門家が集まり話し合いをすれば諸領域を横断した多面的な議論が実現する

問8 筆者の考えや論の進め方を説明したものとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

28

- ① 全国的に増えつつある「まちなか広場」の具体的な事例を複数列挙することで、日本で都市計画にもとづく環境整備が進んでいることに説得力をもたせている
- ② 都市環境のあり方を情報技術によるコミュニケーションに重ねて解説することで、交流にかたよりが生じる都市空間の問題を分かりやすく伝えている
- ③ 産業革命期のイギリスに見られる「都市計画」の出発点に触れることで、「居心地のよい」都市空間が本来は公害の産物であることを悲観的に主張している
- ④ 冒頭でSNSなどのコミュニケーションツールの利便性を認めることで、だからこそインターネットは視野狭窄きょくさうに陥りやすいという結論を強調している
- ⑤ 専門家の言説をまとめて引用することで、「見る―見られる」の関係において、人びとの間で自由に視線の交換が行われる都市の特徴を明確にしている